



(参考仮訳)

プレスリリース No. 12/232  
即時解禁  
2012年6月19日

国際通貨基金 (IMF)  
米国・ワシントン DC

## クリスティーヌ・ラガルド IMF 専務理事による、 G20 ロスカボス・サミットに関する声明

国際通貨基金 (IMF) のクリスティーヌ・ラガルド専務理事は本日、メキシコ・ロスカボスで開催されていた、2012年の20カ国・地域 (G20) 首脳会議の閉会に際し、以下の声明を発表した。

「G20 ロスカボス首脳会議の開催に尽力したフェリペ・カルデロン大統領に感謝の意を表す。カルデロン大統領の結果に対するコミットメントと、IMF加盟国の支援により、本日、メキシコなど G20 の14参加国をはじめとする、37カ国による IMF 財源への追加拠出へのコミットメントを称える機会を得ることができた。4,560億ドル規模の世界レベルの防火壁の構築に向けた我々の取り組みにおいて、カルデロン大統領は効果的かつ力強い発言力を行使した。この防火壁により、IMF は、188加盟国による世界規模でのより健全な経済および金融情勢の回復に向けた努力に対し、これまでより一段と良い支援を行うことができる。また、国際通貨金融委員会のターマン・シャンムガラトナム議長も、積極的な役割を果たしこの結果に貢献した。

世界経済は、依然として多くの不確実性に覆われており、信認の再構築が不可欠である。ロスカボス G20 首脳宣言はこの方向に向けた一歩である。世界経済の回復を確実なものとするためには多くの課題が山積しているが、私はロスカボスにおいて、IMF が掲げてきた経済・金融の世界的課題への包括的・協調的なアプローチを促す、結束間を実感することができた。

G20 各首脳は、強固で持続可能かつ均衡ある成長という明確な最終目標のもと、需要の増大、成長支援、信認の回復および失業問題の改善の実現に向け、必要なあらゆる措置を講じる決意を新たにした。

我々は、欧州とりわけユーロ圏に対する懸念を共有している。ロスカボスでは、全欧州的な回復計画の種が蒔かれた。これを理解し認識する必要がある。欧州の首脳

は、ユーロ圏の一体性と安定を守り、政府と銀行の間の負のフィードバックループを打破するために不可欠な、全ての手段を講じることにコミットした。さらに、より一体化された金融のアーキテクチャの構築への具体的な措置を検討するとの意志は重要であり、IMF のユーロ圏の年次審査の終了にあたり今週欧州を訪問する際に、この件について協議を行うことを期待している。

また、その他の種も蒔かれた。見通しが不確実ななか、先進国・地域は、情勢が悪化した際に、自動安定化装置や裁量的手段の実施の可能性（国の財政的余力による）も含めた財政政策が、金融政策による下支えとともに、果たすべき役割があるという点で合意した。米国は、米国経済を衰弱させる危険性のある財政の壁の回避に向け、適切な政策措置を採ることにコミットしている。これは、世界経済の今後にとり極めて重要である。一方、中国をはじめとする新興市場大国も、世界経済の回復を支えるとの目標を明確に示した。

G20 が引き続き世界経済のガバナンスの改革にコミットしていることに勇気付けられた。私は、2010 年のクォータおよびガバナンス改革の合意の、今年の実施にむけた G20 のコミットメントの実現に向け IMF とともに尽力する。G20 首脳が述べたように、これらの改革は IMF の正当性、重要性および有効性にとり重要であり、また、全加盟国のためとなる IMF の分析の影響力の強化において、極めて重要な役割を果たすと期待される。これに関連し、IMF の金融部門およびマクロ経済のサーベイランス（政策監視）の更なる強化に対する G20 の支援を心から歓迎する。

ロスカボスにおいて、各自の責務に対する共通の認識をより明確にするとともに、短期的にとる我々の措置により、先進国、新興市場国そして途上国が、より力強い成長、雇用の一層の創出、および貧困問題の改善に向けた道にのることができるとの認識を新たにすることができたと確信している」